武尊通信

ほたかつうしん
第187号

群馬歴史民俗研究会

〒372-0033
群馬県伊勢崎市
南千木町 5226-12
gunrekimin@gmail.com

(振替00340-1-14572)

2026.9.1　発行

伊勢崎市千本木龍頭神舞における衣装の変容

水落建哉

筆者は、群馬歴史民俗研究会第一三二回例会（二〇二五年三月二九日）において「伊勢崎市千本木龍頭神舞における舞認識―動作と演目に着目して―」を発表し、民俗芸能の無形部分にあたる舞認識を明らかにすることを試みた。小稿では、民俗芸能の有形部分に焦点を当て、衣装としての太鼓巻きと腰ボンゼンの変容を紹介する。さらに、変容の時期と背景を簡単に考察する。事例とするのは、伊勢崎市北千木町・南千木町に伝わる一人立ち三匹獅子舞「千本木龍頭神舞」である。

まずは、太鼓巻きを取り上げる。これは、腰に着ける太鼓の胴部分に縫い付けるものである。『群馬県の民俗芸能―群馬県民俗芸能緊急調査報告書―』（群馬県教育委員会、一九九七年）の巻頭カラー写真には、濃い色と白の斑点模様のように見える太鼓巻きが付いている。かつての保存会員は男性だけで構成されており、縫い付けの針仕事もしたそうである。また、産着にすると子が丈夫に育つとされ、もらいに来る人がいたという。

動画共有サイト「YouTube」には、一九九七年のアメリカ・スプリングフィールドや二〇〇七年、二〇〇九年の千本木神社秋祭りの映像が投稿されている。いずれも保存会員による撮影であり、とくに後者二か年分は短時間であるが、保存会にとっての通常の秋祭りの記録として貴重である。これらを見ると、いずれも太鼓巻きを付けていない。二〇一〇年ごろまでには、既に太鼓巻きを付けなくなっていたことが分かる。

続いては、腰ボンゼンである。『北千木町南千木町の民俗』（伊勢崎市、一九八七年）によれば、「腰ボンゼンは自分が付けている鳥総（ふさ）と同じ配色のボンゼンを持」ち、「全体の大きさは二五センチ、ボンゼン丈二〇センチ、幅一五センチ、五色の色紙を組み合わせて鳥総と同じ主色を出している」ものであるという。また、「舞い子が腰にさしているのを腰ボンゼン、舞いの『ボンゼン掛かり』に使うボンゼンを大ボンゼンといって区別している」という。

腰ボンゼンは小さい上にトブサで見えにくい箇所に着けるため、写真や映像からの判断は難しい。管見の限り、二〇〇六年に撮影さ

《第一三三回　例会のお知らせ》

対面及びオンライン（Zoom）で開催します。

日時　二〇二六年九月二十七日（日）
午後二時～五時

会場　前橋市中央公民館五〇七学習室
（前橋プラザ元気21　五階）

報告　大澤　広幸氏
「群馬県への学童集団疎開―受入側の記録と実態―」

井野　修二氏
「元総社村が群馬町への改称申請却下の顛末」

申込　会場・オンライン視聴いずれの場合も参加申込が必要です。参加希望者は、申込フォーム（左記ＵＲＬ、二次元コード、本会ＨＰ）に接続し申し込みを行うか、ＴＥＬまたはＦＡＸでご連絡ください。

URL：https://forms.gle/i4uo4pKa2Zd9q3rc8
TEL/FAX：0270（32）9070